アグリたきもとの従業員のうち、海道さん（中央）を含む3人が女性。

# 女性だからこそできることがある

## 【富山県】株式会社アグリたきもと

**農業法人は女性にとってもアクセスしやすい農業の入口。**
**富山県の米どころでは、女性の社長が女性の働きやすい環境の整備に力を入れています。**

撮影／島 誠

### 女性経営者のもとで急成長する株式会社

黒部川の河口近く、北アルプス連峰を望む地で、米と大豆を中心とする大規模な農業を展開しているのが、アグリたきもとです。

代表を務める海道瑞穂さんは「もともとは1・5haの田畑があっただけ。脱サラした父と母、私の3人で始めた小さな農業法人でした」と振り返ります。

平成22年に法人を立ち上げて代表に就任したとき、20代前半だった海道さんは、近隣の人たちが所有する田畑の作業を請け負う形で事業規模を拡大しようと決めます。「昔の農業は体力頼みだったかもしれないけれど、今は優れた農業機械がある」と自ら大型特殊免許を取得しました。小柄な女性がトラクターやコンバインなどの大型農業機械を乗りこなす姿はまだ珍しく、メディアでたびたび取り上げられることに。また近隣の人からは「仕事が丁寧だから、瑞穂さんが耕した田んぼはきれいだ」と評されるようになりました。

アグリたきもとでは、受託している農地の地権者への気配りを欠かさないよう、細やかな品質管理で納得のいく作物をつくるよう心がけています。こうした姿勢や海道さんの経営手腕が認められ、今では地域農業の担い手として頼りにされる存在です。作業を請け負う農地を増やしてきた結果、手がける水田は60ha、大豆畑は41haと、合わせれば100haの大台を超えるまでに。町特産の「入善（にゅうぜん）ジャンボスイカ」や白ねぎもつくっています。

**会社情報**

業種：生産（水稲等）、消費者への直売、作業受託／従業員：7人／勤務時間：8時～17時（シフト制、休憩2時間）／休日：年間85日／その他：介護休暇・育児休暇あり

コンバインやフォークリフトなど大型農業機械もそろう（上）。パソコンを使い、稲の生育状況や気温の変化に対応した細かい管理を行う（左）。



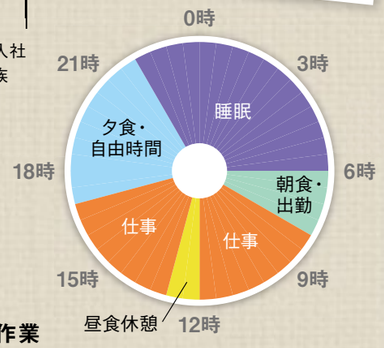
## 私が働いてます！

### 夢は栄養士の資格を活かしての6次産業化

以前、管理栄養士として医療や福祉の施設で働いていたのですが、両親と妹が立ち上げた農業法人が手がける農地を増やしたことで忙しくなり、また家事と仕事を両立できる働きやすい環境にしたというので転職を決めました。まだ見習いですが、自分が手がけた作物がすくすく育っていくのを見るのは楽しいですね。アグリたきもとでは、かわいいデザインのWebページをつくっていて、私が撮影した写真を載せています。将来は、育てた果物を利用した加工商品を開発するなど、栄養士の知識や経験を活かした6次産業化に取り組みたいと考えています。

**滝本菜摘さん**

33歳／平成28年9月入社／夫と子どもの4人家族



昨年11月、フォークリフトの免許を取得。「苦手意識がありましたが、すぐに慣れました」

### ■ 年間の主な作業

| | 1～3月 | 4～6月 | 7～9月 | 10～12月 |
|---|---|---|---|---|
| 稲 | | 種まき　田植え | 除草 | 収穫 |
| スイカ | | 管理 | | さん俵※づくり |
| 大豆 | | 土づくり　種まき | | 収穫・選別 |
| ねぎ | 収穫（ハウス） | | | 収穫（露地） |

※スイカを保護するための稲わらで作った編み物。

ネット販売しているボトル入りの贈答用コシヒカリ。

Webページは女性らしさを前面に出したデザインで、農業のイメージを変えることに挑む。

### 家族を大切にしながら安心して働ける職場に

法人化するときには、地域の若い人たちのために、家族を大切にしつつ安心して働ける職場をつくりたいという思いもありました。

海道さんは、女性が働きやすい環境づくり、という視点も大切にしていて、産前産後・育児休暇、短時間勤務といった制度を導入したほか、シャワー室を設け、休憩室やトイレは男女別にしました。

女性用トイレはテーマカラーのピンク（右）。従業員用のシャワー室も完備（左）。

冬レタスの収穫で力を合わせる鈴生の皆さん。

# 目標は100人の社長を育てること

## 【静岡県】株式会社鈴生（すずなり）

**高品質なレタスなどで知られる静岡県の農業法人、鈴生。従業員を育てることを重視しつつ急成長しています。**

撮影／島 誠

**会社情報**

業種：野菜の生産、販売／従業員：53人（役員・正社員）／勤務時間：夏7時～18時、冬7時～19時（シフト制、休憩1時間半）／休日：年間86日の公休日。夏季休暇あり／その他：賞与・昇給あり、研修生用の寮・社宅あり

### 作物の生長を助ける農業が成功のカギ

静岡市に本社を置く株式会社鈴生は県内に広く分散する計100haの畑でレタスや枝豆などをつくっています。

100%契約栽培で、あらかじめ取引先と数量や価格を決めたうえで生産にかかります。社員が一丸となって生産に励み、「契約を必ず守る会社」と取引先からの信頼も厚い鈴生。味と品質に厳しいことで知られるファストフードをはじめ、複数の大手食品企業に食材を供給するようになりました。

社長の鈴木貴博（よしひろ）さんは大学卒業後、山梨県の農業法人で1年間研修を受けたうえで、平成12年に両親から農園を継ぎました。

農業の産業化を図りたいと考え、事業を家業のお茶とみかんづくりから野菜の契約栽培に切り替えたものの、「5年間は利益が出なかった」そうです。

「悩んでいるとき、師と仰ぐ篤農家から『作物は自分で育つ。その手助けをするのが農家の役目だ』と諭され、ハッとしました」

作物がして欲しいことをする。考え方をそのように改めてから、ようやく満足のいく作物が採れるようになったといいます。

指導に当たる鈴木社長。会社の合言葉は「すべてにおいて手を抜かない」。

### 「自分の分身」である従業員の育成に力を入れる

前身の鈴木農園を法人化したのは、平成20年のことでした。「鈴生」という社名には「作物も人もたくさん集まる会社にしたい」という思いを込めています。

「100人の経営者を育てたい」とする鈴木さんが進めるのは、鈴生で育った従業員が独立して協力会社の社長になり、鈴生に作物を出荷するという形態です。すでに8人が独立を果たし、協力農家になりました。また、従業員に求めるのは素直さ。「素直な人ほど伸びます」。また、「従業員は自分の分身」と言い切る鈴木さんは、惜しみなく技術や知識を伝えるようにしてきました。独立してすぐに経営が成り立つよう支援しているうち、理念に共感した独立志向の強い若者が入るようになっています。

他方、鈴生ではゴルフや野球の大会、社員旅行などでチームワークを高め、また生産目標を達成したら賞与を支給するといったことにも取り組んでいます。働きやすく、やりがいのある職場であることから、長く勤める人も少なくありません。

鈴生では年2回、従業員参加のゴルフ大会を開催している。

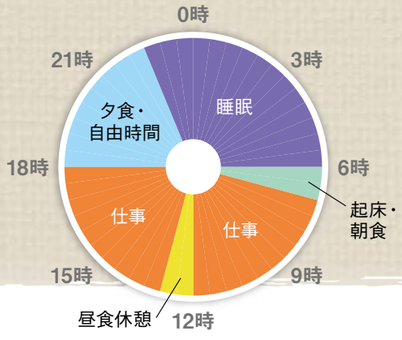
## 私が働いてます！

### 郷里で自分の農場を持つため野菜づくりの腕を磨きたい

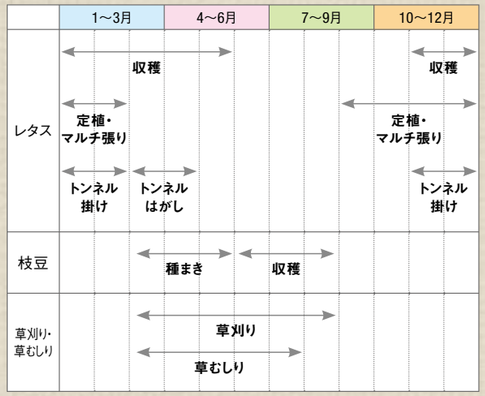
**澤田泰三さん** 28歳／平成29年4月入社／独身

東京農業大学を卒業したのですが、実家が農家でないこともあり、農業法人に就職する道を選びました。鈴生にしたのは、海外の大規模な農場に匹敵する面積の畑を効率的なシステムで管理していること。また社員一人ひとりが多くのことに挑戦し、熱意を持って仕事に取り組んでいる姿に感動したからです。鈴生では、東京大学を卒業した人も働いています。さまざまな経験や技能を持つ人たちと働くのは楽しいですし、団結して目標をクリアした時には大きな達成感が得られます。いずれは独立し、鈴生グループの一員として郷里の岐阜に自分の畑を持ちたいですね。

育苗センターで育てた苗をハウスに運び、水をやりつつ管理（上）。2～3日かけて現地の気候に慣らした苗を植えつける（下）。




### ■ 年間の主な作業




澤田さんはレタスなどの定植や収穫の作業、およびこれに関わる管理作業を行う。